



知って、納得。
乳がんのこと

がん予防キャンペーン大阪2012 講演会

日時 平成24年10月6日(土) 13:00~16:00

場所 朝日生命ホール

1981年以降、日本人の死因の第1位はがんであり、2010年の統計によると、全死亡1,197,066人のうちがん死亡が353,318人、29.5%を占めました。

大阪府のがん年齢調整死亡率は、2010年に全国でようやくワースト5を脱出しました。(男性ワースト7位、女性ワースト6位)私共、大阪の保健医療に携わるものにとりまして、当面の目標をクリアーでき喜ばしいことではありますが、まだまだ満足できる状況ではなく、さらに上位を目指し努力する必要があります。そのため、がんの予防、がん検診は大変重要であります。

1975-2005年の部位別年齢調整罹患率をみますと、男性では胃がん、肺がん、大腸がん、女性では乳がん、大腸がん、胃がんの順で高く、増減傾向は、胃がんは減少傾向を、肺がん、大腸がんは近年横這いしないし若干の減少傾向を示すのに対し、乳がんは現在でも増加傾向が続いており、生涯で乳がんにかかる日本人女性は16人に1人とされています。

欧米での研究によりマンモグラフィ検診の効果は確立しており、検診を拡大することにより乳がん死亡率を減らすことができます。2000年から我が国でも導入され、2009年には無料クーポン制度が始まりました。しかし、大阪府の乳がん検診の成績をみますと、2008年の受診率は14.9%と未だ低いレベルに留まっています。乳がん検診の受診率向上へ向けた取り組みは、受け入れ体制の整備を含め喫緊の課題です。

がん予防キャンペーン大阪実行委員会は、大阪府、大阪市、大阪府医師会など11団体が集まって、毎年、がん予防に関する啓発を目的とし、シンポジウムの開催や冊子の配布等の事業を行ってきました。今年度は「乳がん」をテーマに講演会を開催することとしました。

これを機会に一人でも多くの府民の方に乳がんの予防、検診、治療についてご理解いただき、大阪府の乳がん死亡減少につながることを期待しております。

プログラム

(第1部) ミニ・コンサート

弦楽四重奏／日本センチュリー交響楽団

ファーストヴァイオリン：蔵川 瑠美(くらかわ・るみ)

ヴィオラ：飯田 隆(いいだ・たかし)

セカンドヴァイオリン：小川 和代(おがわ・かずよ)

チェロ：渡邊 弾楽(わたなべ・だんがく)

(演奏曲) 1.愛の挨拶／エルガー

2.弦楽四重奏曲第12番『アメリカ』より第1,4楽章／ドヴォルザーク

3.川の流れるように／美空ひばり

4.情熱大陸テーマ／葉加瀬太郎

(第2部) 講演会

1)開会挨拶 財団法人 大阪府保健医療財団 理事長 高杉 豊

2)講演

1.「乳がん検診、早期発見を目指して!」

(財)大阪府保健医療財団 大阪がん循環器病予防センター乳腺検診部長 相川 隆夫

2.「乳がん治療の最前線～一人ひとりに適した乳がん治療とは～」

国立病院機構大阪医療センター 外科・乳腺外科 増田 慎三

3.「私の乳がん体験記」

おしゃべり茶論事務局 (乳がん体験者) 越久 啓子

3)総合討論

出演：相川隆夫、増田慎三、越久啓子

司会：小山 博記／大阪府立成人病センター 名誉総長

4)閉会挨拶

(財)大阪府保健医療財団 大阪がん循環器病予防センター所長 田中 幸子



相川隆夫 氏

(財)大阪府保健医療財団 大阪がん循環器病予防センター 乳腺検診部長

- 経 歴**
- 1972年 大阪医科大学卒業
 - 1975年 大阪大学第2外科副手
 - 1979年 西宮市立中央病院外科医員
 - 1991年 同病院乳腺内分泌外科部長を経て、1998年外科総括部長
 - 2001年 (財)大阪がん予防検診センター(現:大阪がん循環器病予防センター) 乳腺検診部参事
 - 2003年 同センター乳腺検診部長

- 専 門**
- 日本外科学会認定医
 - 日本乳癌学会専門医
 - 近畿外科学会評議員
 - 検診マンモグラフィ読影認定医



増田慎三 氏

国立病院機構大阪医療センター 外科・乳腺外科

- 経 歴**
- 1993年 大阪大学医学部卒業
大阪大学医学部附属病院、大阪通信病院で外科初期研修
 - 1997年 大阪大学大学院医学系研究科 2001年 同卒業(医学博士)
 - 2001年 市立堺病院外科医長
 - 2003年～現職

- 専 門**
- 日本乳癌学会 評議員・専門医
 - 日本外科学会 指導医・専門医
 - 日本乳癌検診学会 評議員
 - ASCO, EUSOMA会員
 - JBCRG理事 他



越久啓子 氏

大阪がん循環器病予防センター 非常勤職員

- 経 歴**
- 住友生命保険(相)事務職員退職後、55歳時に乳がんと診断され、大阪医療センターにて手術・治療を終え、現在経過観察中。
 - 平成22年、乳がん患者会『おしゃべり茶論』の立ち上げに際し、事務局担当となる。
 - 現在、大阪がん循環器病予防センターの乳がん検診車において、受付事務として勤務し、乳がん検診・自己触診の啓発に努めている。



小山博記 氏

大阪府立成人病センター名誉総長

(財)大阪府保健医療財団 大阪がん循環器病予防センター特別顧問

- 経 歴**
- 1960年 大阪大学医学部卒業
 - 1965年 大阪府立成人病センター外科医員
 - 1978年 同センター第3外科部長、1988年同センター病院長を経て
 - 1999年 大阪府立成人病センター総長に就任
 - 1999年～2010年 厚生労働省がん研究助成金運営委員
 - 2004年 大阪府立成人病センター名誉総長

- 専 門**
- 日本乳癌学会元会長・元理事
 - 日本外科学会専門医
 - 検診マンモグラフィ読影認定医
 - 大阪府がん検診協議会委員

乳がん検診、 早期発見を目指して!

(財)大阪府保健医療財団 大阪がん循環器病予防センター 乳腺検診部長 相川隆夫

現在、日本人女性が罹る(罹患率)癌のトップは乳がんで、毎年5万人程の発見数と年間1万2千人程の死亡数が報告されており、将来約16人に1人が乳がんにかかると推測されています。逆に欧米では、罹患率は横ばいか、やや減少傾向を示し、死亡率は大幅な減少傾向を示しています。この違いは何故なのでしょう? タバコや食事などの予防医学の啓発活動や抗がん剤、ホルモン剤、分子標的薬剤などの治療薬剤や診断機器の進歩などが考えられていますが、それにもまして検診によって治癒率の高い早期乳がんの発見率が高くなったおかげだとも言われています。

現在、細胞の遺伝子の解明が進み、癌が発生する原因としてがん遺伝子が傷つくことでその正常な細胞が癌に変化すると云われています。がん遺伝子を傷つける要因として加齢、食生活、ライフスタイルの変化、ウィルスの感染等の影響が考えられますが、これらの影響を全て排除して生きていくことは困難だと考えられます。そこで、もし癌にかかってもその癌で死亡しないような早期がんを見つけてもらうことができる二次予防、すなわち検診が非常に大切なことだと思われまます。

乳がん検診には、医師の診察とマンモグラフィ(乳房専用X線撮影装置)の撮影が行われています。このマンモグラフィ併用検診は触診では判らないような小さい癌が見つかる事もあり、欧米のほとんどの国で行われている検診方法です。我が国では本格的に平成16年より40歳以上の女性に対して隔年ごとに行われています。また厚生労働省は平成24年までに乳がん検診受診率を50%以上とすることを目標に掲げていますが、平成22年現在全国平均25%と報告されており、とくに大阪は19%とワースト4に入っています。(国民生活基礎調査より国立がん研究センターがん対策情報センター)この日本の乳がん検診受診率は欧米の約60~80%と比較し極端に低く、このような受診率では将来乳がん死亡率の減少は困難だと考えられています。

乳がんにかからないようにするよりも乳がんで亡くならないようにすることが、より現実的に即していると考えられます。乳がん検診を受けられることによって、特に自覚症状のない早期がんの発見率が高いことが判っており、ぜひ多くの方々に検診を受けて頂きたいと思っています。

乳がん治療の最前線

～一人ひとりに適した乳がん治療とは～

国立病院機構大阪医療センター 外科・乳腺外科 増田慎三

乳がんが見つかったら～あなたはどうかされますか?“がん”だからすぐに広がってしまう!一刻でも早く手術でとってしまいたい!!いえいえ、あわててはいけません。乳がんの治療の考え方はここ10数年大きく変化を遂げ、またさらにより良い方向へ進歩しています。またこれからあなたは10年以上も永くこの病気とお付き合いをしていかなければなりません。その期間、あなたも変化し、そして乳がんの治療も変化していきます。その変化の最前線で常に新たな情報に満たされ、適宜柔軟な対応ができること、それがきっとより良い結果を導いてくれることに是非気づいてください。私たちの個性が一人ひとり違うように、実は“乳がん”と一括りにはできず、一人ひとり違った乳がんの特徴を持っています。その特徴にあった治療を受けるには…そうあなたにあった病院を見つけることからスタートです。

看護師さんや薬剤師さんのみならず色々な専門家によって構成される“チーム医療”がいち早く導入されたのも乳がん診療でした。さらに、癌のタイプとしてホルモン陽性やHER2陽性などに区別してお薬の治療法が異なったりと、“個別化治療”の必要性も、他のがん治療に比べて早くから認識され、その取り組みがなされてきました。しかし、本当の意味での“一人ひとりに適した乳がん治療”はまだ未だ未完成で、その門口に立ったばかりです。スタートラインのがんの情報を知ること、そしてそれに合った治療を行うことが大切なことはみなさん既によくご存じだと思います。それで十分でしょうか?さらに必要なことはないでしょうか?

私たちが“がん細胞”をやっつけようとする、“がん細胞”はそれに抵抗してその攻撃を克服しようします。その時の“がん”の反応を捉え、さらに次なる手を打たないといけません。そのためには、先を読み、それに対する備えを持つことが大切です。そうです。常に、正確な“情報”を様々な角度から収集し、それを正しく解析し、その結果を上手に統合することが大切です。今まさに乳がん診療の新たなキーワードは、“情報”だと思います。今日のお話からその一端を感じ取っていただければと思います。

“情報”に関しては、また違った観点からのお話もしてみたいと思います。様々な経験や情報を基に、今の標準治療よりもさらにより良い治療の開発をめざし、臨床試験が計画されます。その中の一つに、新薬の開発とその承認取得のための治験があります。大阪医療センターはこれらに積極的に取り組んでいます。世界的に著名なNCCNガイドラインの全てのページに、“臨床試験や治験が最善の治療”と記載されているのはなぜでしょうか。あなたの答えを是非みつけてみてください。

主催 「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会

構成団体 大阪府
大阪市
(社)大阪府医師会
(財)大阪対がん協会
(財)結核予防会大阪府支部
(社)大阪公衆衛生協会
(社)大阪エイフボランティアネットワーク
大阪府地域婦人団体協議会
大阪市地域女性団体協議会
(財)大阪成人病予防協会
(財)大阪府保健医療財団

後援団体 大阪府市長会
大阪府町村長会
大阪市教育委員会
大阪労働局
近畿厚生局
(社)大阪府歯科医師会
(社)大阪府薬剤師会
(社)大阪府看護協会
(社)大阪府助産師会
(社)大阪府栄養士会
大阪府学校保健会
大阪市学校保健会
大阪私立中学校高等学校連合会
(社)大阪府病院協会
(財)阪喉会
(社)大阪青年会議所
大阪商工会議所
朝日新聞社
朝日放送株式会社
NHK大阪放送局
大阪府PTA協議会
大阪府立高等学校PTA協議会
大阪市PTA協議会
「喫煙と健康」WHO指定研究協力センター
たばこと健康問題NGO協議会
健康保険組合連合会大阪連合会
(財)日本予防医学協会西日本統括センター
大阪私立中学校高等学校保護者会連合会
たばこれす
(株)図書館流通センター

協賛団体 アフラック
東京海上日動火災保険(株)
東京海上日動あんしん生命保険(株)